

環境指標の状況について

平成 18 年度末時点における、環境指標(環境基本計画において設定)の状況は、次のとおりです。

1 全般的な状況

指標の状況を、すでに目標を達成しているもの、指標が基準値(計画策定時)より改善しているもの、基準値から横ばいであるもの、基準値から改善していないものに分類した結果は、右表のとおりです。前年度と比較すると、目標を達成した指標が7項目、目標に向け改善している指標が1項目それぞれ増加しています。指標が横ばいあるいは改善していないものについては、原因の分析や施策事業の見直しを進め、目標の達成を図ることとします。

推進状況の分類(凡例)	項目数 (前年度)	項目数 (今回)
目標を達成しているもの	18	25
指標が改善しているもの	19	20
指標が横ばいであるもの	13	8
指標が改善していないもの	6	3
計	56	56

2 主要な指標の動向

- (1) 一般廃棄物の排出量は、ここ数年は横ばい傾向にありますが、前年度比では6年ぶりに減少(-0.6%)に転じました。また、産業廃棄物の総排出量も、前年度比で減少(-0.4%)しており、県民、事業者等各主体の取り組みの成果が見られます。このような状況を進展させるため、廃棄物の発生抑制等に係る施策を総合的、計画的に推進します。
- (2) 大気環境については、環境基準の達成が極めて困難な光化学オキシダントを除き、すべての項目で環境基準が達成されており、良好な状態が保たれています。
- (3) 水質については、湖沼における環境基準達成地点数は横ばい(5地点中3地点)でしたが、河川においては、現在の環境基準点が指定された平成7年以降では、平成14年度に次ぐ達成地点数(22地点中19地点)となりました。引き続き、下水道や浄化槽等といった生活排水処理施設の整備等を推進します。

¹ 1年間で昼間の1時間値が環境基準を超えた場合が1回でもあると非達成となる。全国で達成した測定局は1,184局中3局(0.3%、H17)。

(4) 温室効果ガス総排出量は、前年度比で減少しています(-2.8%)。県民、事業者、NPO 法人等幅広い主体との連携による、温室効果ガスの抑制対策と啓発活動を進めます。

3 環境指標一覧

基準値、現状値及び目標値のかっこ内は年度。かっこ書きがない目標値は計画最終年度(H25)の目標。

	指標の項目	計画策定時 (基準値)	現状(平成18年度末 の状況)	目標値	推進 状況	備考
1	一般廃棄物排出量	348千t(H15)	347千t(H17)	312千t(H22)	→	前年度比で0.6%の減少となった。
2	県民1人1日当たりごみ排出量(資源回収されるものを除く。)	1,030g(H15)	1,017g(H17)	937g/日(H22)	↗	
3	一般廃棄物リサイクル率	17.3%(H15)	18.5%(H17)	28%(H22)	↗	
4	産業廃棄物総排出量	2,000千t(H15)	1,913千t(H17)	2,302千t(H22)		前年度比で0.4%の減少となった。
5	産業廃棄物再生利用量	993千t(H15)	948千t(H17)	921千t(H22)		
6	産業廃棄物最終処分量	247千t(H15)	219千t(H17)	161千t(H22)	↗	
7	自然環境保全地区面積(自然造成地区は除く。)	3,650ha(H15)	3,650ha(H18)	3,650ha		
8	鳥獣保護区等指定面積	77,227ha(H15)	77,662ha(H18)	77,662ha(H18)		
9	自然監視員委嘱数	216人(H16)	208人(H18)	250人	↘	監視員の重要性等の周知により増加を図っており、前年度比では11名増加した。引き続き、監視員制度等の周知を図る。
10	山岳レインジャーの延べ人数	462人(H16)	462人(H18)	462人		
11	緑サポーター登録者数	60人(H15)	100人(H18)	360人	↗	
12	自然公園等利用者数	3,381万人(H14)	3,686万人(H17)	3,653万人		
13	「森林文化の森」パートナー数	5団体(H15)	12団体(H18)	15団体	↗	
14	富士山山小屋トイレ整備率	33.3%(H15)	100%(H18)	100%		
15	河川水辺環境整備箇所数	67箇所(H15)	72箇所(H18)	90箇所	↗	
16	大気汚染に係る環境基準達成測定局数(光化学オキシダントのみ短期的評価、その他は長期的評価)	二酸化硫黄2測定局中2測定局(H15)	2測定局(H18)	2測定局		
17		一酸化炭素2測定局中2測定局(H15)	2測定局(H18)	2測定局		
18		浮遊粒子状物質11測定局中11測定局(H15)	11測定局(H18)	11測定局		
19		二酸化窒素11測定局中11測定局(H15)	11測定局(H18)	11測定局		
20		光化学オキシダント10測定局中0測定局(H15)	0測定局(H18)	達成率の向上を図る。	→	全国の達成率は0.3%(H17)。原因物質の濃度は低減傾向にあることから、引き続き大気汚染防止法に基づく原因物質の排出規制等の対策を講じる。
21	低公害車導入台数(軽自動車を除く。)	49,940台(H15)	83,137台(H17)	増やす。		
22	エコドライブ宣言車両率	12.3%(H15)	14.1%(H18)	16%	↗	

	指標の項目	計画策定時 (基準値)	現状(平成18年度末 の状況)	目標値	推進 状況	備考
23	水質汚濁に係る環境基準達成地点数	河川22地点中18地点(H15)	19地点(H18)	22地点	↗	
24		湖沼5地点中3地点(H15)	3地点(H18)	5地点	→	原因の分析とともに、生活排水処理施設の整備等水質改善対策を進める。
25	生活排水クリーン処理率	63.9%(H15)	70.2%(H18)	82%(H22)	↗	
26	ダイオキシン類の環境基準達成地点数(大気、公共用水域、地下水質及び土壌)	すべての調査地点で達成(H15)	すべての調査地点で達成(H18)	すべての調査地点で達成		
27	自動車騒音に係る環境基準達成率(昼夜間とも基準値以下)	(面的評価)73.6%(H15)	79.3%(H18)	達成率の向上を図ります。		
28	電線類地中化延長	38.1km(H15)	46.3km(H18)	78km	↗	
29	国県指定文化財数	638件(H15)	655件(H18)	688件	↗	
30	市街地の人口1人当たりの身近な公園の整備面積	1.7㎡(H15)	1.7㎡(H18)	2.0㎡	→	隣接する河川の改修により面積が減少となった公園があるが、代替公園を整備中。平成19年度には供用開始される公園があり、改善傾向となる見込み。
31	「緑の教室」受講者数	641人(H15)	798人(H18)	1,000人	↗	
32	温室効果ガス総排出量	7,658千t-CO2(H12)	7,683千t-CO2(H16)	6,260千t-CO2(H22)	→	前年度比では2.8%の減少となっている。今後も地球温暖化防止に係る啓発活動等を推進する。
33	森林吸収源対策による森林の二酸化炭素吸収量	656千t-CO2(H14)	676千t-CO2(H17)	864千t-CO2(H22)	↗	
34	環境科学研究所における環境学習プログラム参加者数	18,547人/年(H15)	21,215人/年(H18)	19,000人/年		
35	やまなし森の教室参加人数	10,000人/年間(H15)	16,196人/年間(H18)	20,000人/年間	↗	
36	学校林活動実施校数	23校(H14)	27校(H18)	46校	↗	
37	親子エコスクール参加者数	40人(H16)	31人(H18)	40人	↘	当日のキャンセルにより目標に達しなかった。事業への関心は高く、実施方法の改善を行う。
38	環境科学研究所による学習指導者派遣回数	11回(H15)	46回(H18)	15回		
39	山梨環境科学カレッジ修了者数	24人(H15)	40人(H18)	24人		
40	環境アドバイザー派遣回数	40回(H16)	40回(H18)	40回		
41	環境美化活動参加者数	370,647人(H14)	535,965人(H18)	400,000人		
42	土木施設環境ボランティア数	16団体(H15)	59団体(H18)	50団体		
43	人口10万人当たりのNPO法人数	10.6法人(H15)	24法人(H18)	40法人	↗	
44	森林ボランティア団体数	18団体(H15)	28団体(H18)	50団体	↗	
45	環境科学研究所来館者数	46,266人/年(H15)	45,773人/年(H18)	50,000人/年	→	来館者数、センター利用者数は、近年横ばい傾向にある。学習機器や環境学習プログラムを充実し、来館者数等の増加を図る。
46	環境センター-利用者数	13,671人/年(H15)	13,029人/年(H18)	19,000人/年	→	
47	環境科学研究所における図書等貸出数	図書2,442冊、ビデオ679本(H15)	図書2,583冊、ビデオ622本(H18)	図書2,900冊、ビデオ760本	→	環境に関する専門図書や情報収集に努め、利用の増加を図る。

	指標の項目	計画策定時 (基準値)	現状(平成18年度末 の状況)	目標値	推進 状況	備考
48	やまなしの環境アクセス数	- (計画策定時未 掲載のため)	10,298件/年 (H18)	12,000件/年	↗	
49	環境科学研究所研究テーマ 数	27テーマ(H16)	27テーマ	27テーマ		
50	環境研フォーラム、国際シ ンポジウム参加者数	130人(H16)	130人(H18)	130人		
51	富士山周辺の環境美化活動 参加者数	29,000人/年 (H15)	37,000人/年 (H18)	30,000人/年 (H18)		
52	富士山スバルラインのマイ カー利用率	43%(H15)	40%(H17)	前年より低くす る。		
53	新規林業就業者数	41人(H15)	39人(H18)	50人	↘	事業量の確保や資金の貸付等により新規就業者の労働環境の安定を図る。
54	水源の森づくり面積(育成 複層林面積)	8,000ha(H15)	8,657ha(H18)	17,000ha	↗	
55	エコファーマー認定者数	2,080人(H15)	6,615人(H18)	4,000人		
56	甲斐のこだわり環境農産物 認証件数	22件(H15)	40件(H18)	100件	↗	

推進状況の凡例

	目標を達成しているもの
↗	指標が改善しているもの
→	指標が横ばいであるもの
↘	指標が改善していないもの